

表彰

箕作賞

歴史と文化のまち津山での
 奨励をたたえて

図書広報室 ☎32-2026

市では、毎年、市内の大学（大学院や高専などを含む）から推薦された学生に「箕作賞」を贈っています。
 この賞は津山が生んだ洋学者・箕作阮甫にちなみ、市内の大学などを優秀な成績で卒業する学生に贈るものです。
 洋学の先駆者を輩出した津山市。この地で研鑽を積んだ学生生活の良き思い出に、今後さらに活躍されることを願っています。

- 美作大学**
- 村上夏未さん（広島県）
 - 下掛祐紀さん（広島県）
 - 松井美紀さん（高知県）
 - 美作大学短期大学部
 - 伊藤夏子さん（広島県）
 - 前田美里さん（鳥取県）
 - 浅野祐美さん（鳥根県）



- 津山工業高等専門学校**
- 近藤佑樹さん（津山市）
 - 大塚友美子さん（津山市）
 - 大石勲斗さん（美咲町）
 - 森下和哉さん（津山市）
 - 藤原正貴さん（倉敷市）
 - 寺元陶治さん（津山市）
- ※（ ）内は出身地



市民と市長のふれあいトークを開催しました

図書広報室 ☎32-2029

学生版 第8回
 とき 3月15日(水)
 テーマ 津山の活性化のために高校生ができること

- 参加者**
- 津山商業高等学校
 横山奈々さん、秋田美久さん、畑田彩奈さん、高橋秀郎さん、八幡優大さん、見手倉祥生さん、定兼久昌乃さん、池田陸さん、浅尾奈那さん、芦田瑠美奈さん、服部祥子さん、赤田有優さん、丸下未来さん

参加者 わたしたちは、津山市の発展のために、地域に貢献できる取り組みをやりたいと思っています。市では学生が中心となって政策を進めることがあります。



市長 政策ではないですが、市内の大学生や高校生などが実際にまちに出向き、工夫しながら地域と連携した事業を行っています。皆さんはグルメを考案したり、高齢者にお弁当を作って配ったりしていますね。毎年開催されている津商モールも楽しみにしている市民の皆さんは多いです。少子高齢化が進む中、若い人たちが、自分た

ちで何ができるかを考えて取り組まれることは、うれしいことです。
参加者 津山市の活性化のために、何か取り組みをされていますか。
市長 平成28年3月に第5次総合計画を策定し、子育て支援策や地域産業の基盤強化など、さまざまな事業に取り組んでいます。さらに津山圏域1市5町と一緒に取り組んでいくことを計画しています。
参加者 津山市を全国に宣伝する取り組みをしていますか。
市長 移住・定住面、そして観光面で津山を売り出すために、ポスター広告や電子広告版、関西圏の電車の中吊り広告などで宣伝活動を展開しています。高校生の皆さんもツイッターやフェイスブックなどで、津山市を宣伝してください。
参加者 高校生に何を期待しますか。
市長 高校を卒業して、進学や就職のために津山を一時的に離れても、知識や経験をもって、津山に帰って来て活躍してほしいです。
参加者 わたしたちができることはありますか。
市長 津山のまちを歩いて、良い所などを知って、もっと好きになってほしいですね。若く新鮮なアイデアを生かして、ぜひ、津山市の宣伝マンになってください。

第27回
 とき 2月21日(火)
 テーマ 里親制度について知ってほしい

- 参加者**
- 美作地区里親会の皆さん

市長が美作地区里親会の皆さんから、里親制度についてお話を伺いました。

参加者 里親制度は、親の病気や離婚など、さまざまな事情により、家庭で暮らせない0〜18歳の子どもたちを、里親が自分の家庭に迎え入れて養育する制度です。

里親には、自分の子どもを育てた後に里親をしようと思った人や子どもに恵まれなかった人など、さまざまな人がいます。里親になるために、年齢や発達障害など、子どもの状況に応じた知識や養育の仕方を身に付けるために研修を受講して資質を向上させています。

また、里親同士が孤立を防ぎ、互いに支援し合えるよう美作地区で里親会を作り、情報交換や交流を行っています。

市長 さまざまな理由で里親になる人がいることに驚きました。子どもたちを守るためにも重要な活動ですね。

参加者 現在、実親から虐待を受けている子どもが増えている、児童養護施設に預けられることが見受けられます。里親に預けてほしいのですが、実親に制度を理解してもらえず、結局、子どもをどこにも預けられなくて、虐待がひどくなる場合があります。里親を活用していただくことで、虐待を受ける子どもが少なくなればと願っています。

里親会では、県の児童相談所から出前講座への協力依頼を受け、できるだけ多くの人に里親制度のことを理解してもらいたいという思いで、講師として参加しています。里親制度の説明と合わせて、わたしたちの里親体験を話し、里親と里子の気持ちや環境などを伝えていきます。

里子を偏見の目で見る人もいますので、多くの人に制度を理解してもらい、里子を社会の子として捉えてほしいと思っています。ぜひ、広報紙でも取り上げていただき、広く伝えられたらと思っています。

市長 子どもたちを支援するため、市民と行政との協働は大切ですね。わたしたちも、子どもたちを守るために自分たちでできることや、これから何をすべきかを考えたいと思います。

広報紙では、10月の里親月間を軸として掲載を検討していければと考えています。

第28回
 とき 3月17日(金)
 テーマ 里親・里子支援サークルの活動を知ってほしい

- 参加者**
- 美作大学
 藤永明里沙さん、伊藤麻子さん、野木寛明さん、前田梨奈さん、秦愛実さん

市長が美作大学里親・里子支援サークルの皆さんから、サークル活動についてお話を伺いました。

参加者 わたしたちの先輩が、里親制度に興味を持ち、美作大学の授業で里親会と関わったことがきっかけで、里親・里子支援サークルを立ち上げました。現在は20人ほどで活動しています。

サークルで企画したキャンプなどに、里親・里子の皆さんが参加します。また、里子の宿題を見てあげたり、里親の皆さんの会合の際に、里子の託児をしたりしています。

里親の皆さんは優しく、里子のみんなは元気で明るいです。発達障害のある子どもが危ない行動をし



た時などは、対応が難しく勉強が必要だと感じています。
 学生のサークルが里親支援に主体的に関わっていることは、日本で初めてではないかといわれています。里親の皆さんが、わたしたちの活動を受け入れてくださっていることに感謝しています。

市長 里親制度を理解して、少しでもお手伝いしたいと思ったので、素晴らしい取り組みです。

参加者 わたしたちの活動資金は、インターネットを通じて寄付を募って集めています。そこで、里親の研修会などの案内チラシにもサークルの活動を紹介していただくと思っています。市でも、活動の周知に協力していただけませんか。
市長 支援する人、される人、皆さんが喜びを感じられる活動は珍しいと思います。多くの人に寄付へ賛同していただくと、それがまた大きな支援活動につながりますね。そのためには、活動そのものが市民に理解されるよう、大学などで講演会を開催するなど、活動を広めることが必要ですね。

市でも広報紙に掲載するなど、さまざまな情報手段を使って支援したいと思います。学内の皆さんに知っていただくことも大切ですね。